

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	総合発達支援プラザ ふらっぷ1号館 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 17日 ～ 2026年 2月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 17日 ～ 2025年 2月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切なアセスメントの実施と具体的な支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族と面談の時間をもち、その中で5領域の視点を取り入れながらアセスメントを実施している。</li> <li>ご家族の意向を丁寧に聞き取り、その意向に沿いながらお子さんの発達状況や支援の場での様子などを含めて、目標の設定、支援計画の作成を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所内でのお子さんの発達状況の確認をより詳細に実施していく。</li> <li>評価ツールの見直し・検討等を行い、実施時期などを決定していく。</li> </ul>
2	活動プログラム内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>お子さんの発達状況に応じて段階づけをして活動を提供している。</li> <li>活動を行う部屋や環境などを整備して実施している。</li> <li>様々な経験を積むことが出来るように、多職種の視点を取り入れながら活動内容を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容の検討をチーム(多職種)で行い、お子さん一人一人に合ったプログラムを提供していく。</li> </ul>
3	こどもの発達状況や課題についての共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>お迎えの際に、その日の活動への取り組みの様子を丁寧に伝え、どの様にしてできたのか、どんなふうに取り組めたのかなど具体的な内容を共有するようにしています。</li> <li>必要時に、園や家での様子も確認し、総合的な視点でお子さんの様子を捉えることが出来るようにしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より詳細な共有が必要であった場合などは、関係者を集めた会議などを行い、連携を大切にしながら支援を進めていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中での他の子どもとの活動の機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の園と併用しているお子さんも多いため、実施することへの意識の低さがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園のお子さんも全くないわけではないので、地域の園さんとの関わりや、地域のイベントなどに参加することの検討を行っていく。</li> </ul>
2	地域に開かれた事業の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策の観点もあるため、行事等を開催しても参加対象の枠を決めてしまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、徐々に参加対象の枠を広げて、地域の方々にも知っていただける機会を取り入れていきたい。</li> </ul>
3	こどもの状態や場面に応じた職員の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用人数に対するスタッフ数はきちんと守られているが、お子さんの状態や場面によっては、スタッフ配置が難しいと感じる場面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お子さんの受け入れとスタッフ配置のバランスを利用日決定の際に複数で確認していく。</li> <li>場面ごとの安全な配置をスタッフ間で共有し、常に確認と声のかけ合いをしながら支援を行う。</li> </ul>